川柳

百歳の誕生祝い光る顔　石田　洋子

雑草も日照りの中で花一輪　権代　芳範

炊飯器明日の始動予約する　竹本　タエ子

清清し朝の一筆墨をする　坪郷　英美子

甲子園ハラハラすれどまず平和　藤井　節子

ひゃくさいのたんじょういわいひかるかお　いしだ　ようこ

ざっそうもひでりのなかではないちりん　ごんだい　よしのり

すいはんきあしたのしどうよやくする　たけもと　たえこ

すがすがしあさのひとふですみをする　つぼごう　えみこ

こうしえんはらはらすれどまずへいわ　ふじい　せつこ

俳句

牛小屋に去年の暦赤のまま　林　保江

蟷螂や貌かくかくと傾けり　山本　隆子

籐椅子の軋みの誘ふ睡魔かな　金内　憲一

孫に語る遠き思い出蝉しぐれ　戝間　由美子

校庭の静かさ広さ猛暑の日　村瀧　富子

うしごやにきょねんのこよみあかのまま　はやし　やすえ

とうろうやかおかくかくとかたむけり　やまもと　たかこ

とういすのきしみのさそふすいまかな　かねうち　けんいち

まごにかたるとおきおもいでせみしぐれ　ざいま　ゆみこ

こうていのしずかさひろさもうしょのひ　むらたき　とみこ

短歌

物言わぬお地蔵様の口からも
暑いと悲鳴の聞こえるような

賤間　星

長雨の水滴まとい艶増しぬ
葉陰に伸びおり紫紺の茄子が

原田　たえ子

木漏れびが夏の風とかくれんぼ
あっちに走りこっちに逃げる

山口　正子

草の葉をしかと掴みて脱皮する
柔らかき翅の蝉の誕生

末永　敦子

餌をくわえ音なく降りる雀の子
驚かすまじこの身固めて

河野　美津子

ものいわぬおじぞうさまのくちからも
あついとひめいのきこえるような

ざいま　せい

ながあめのすいてきまといつやましぬ
はかげにのびおりしこんのなすが

はらだ　たえこ

こもれびがなつのかぜとかくれんぼ
あっちにはしりこっちににげる

やまぐち　まさこ

くさのはをしかとつかみてだっぴする
やわらかきはねのせみのたんじょう

すえなが　あつこ

えをくわえおとなくおりるすずめのこ
おどろかすまじこのみかためて

かわの　みつこ

自由律俳句

今日を脱皮して風まかせ

権代　祥一

夕焼けの残る空に今日のカケラを探す

田中　里美

月夜の風に一番のり

松下　満江

自分に「ゆっくり歩け」といいきかす

山下　幸雄

おたのしみは心の貯金箱

田中　律子

きょうをだっぴしてかぜまかせ

ごんだい　しょういち

ゆうやけののこるそらにきょうのかけらをさがす

たなか　さとみ

つきよのかぜにいちばんのり

まつした　みつえ

じぶんに「ゆっくりあるけ」といいきかす

やました　ゆきお

おたのしみはこころのちょきんばこ

たなか　りつこ